



TD-1

取扱説明書

本機を正しくお使いいただくために、ご使用前に『安全上のご注意』と『使用上のご注意』（『安全上のご注意』チラシと取扱説明書（P.12））をよくお読みください。お読みになったあとは、すぐに見られるところに保管しておいてください。

目次

ドラムについて知ろう	2
ドラム・セットの構成	2
ドラム奏法の基本	2
クイック・スタート	4
周辺機器の接続	4
フロント・パネル	4
電源を入れる／切る	4
演奏する	5
ドラム・キットを選ぶ	5
メトロノームを鳴らす	5
練習する	6
コーチ・モードで練習する	6
ビートに合わせて正確に叩く	6
リズムの変化に合わせて叩く	6
テンポの変化に合わせて叩く	7
身体でテンポを覚える	7
一定のテンポで叩き続ける	7
右手と左手の叩く強さをそろえる	8
時間を決めて練習する	8
自分の演奏を録音して確認する	8
ソングに合わせて演奏する	9
ソングを選ぶ	9
ソングを再生／停止する	9
パソコン／iPad と接続する	9
詳細設定をする	10
パッドの感度を調節する	10
パッドの種類を変更する	10
MIDI ノート・ナンバーを変更する	10
オート・オフの時間を変更する	10
工場出荷時の設定に戻す	10
資料	11
トラブルシューティング	11
主な仕様	11
安全上のご注意	12
使用上のご注意	12

ドラムについて知ろう

ドラム・セットの構成

ドラム・セットの基本的な用語を説明します。

バス・ドラム／キック・ペダル

バス・ドラムは、ドラム・セットの中で最も大きなドラムです。キック・ペダルを踏んで演奏します。

※キック・ペダルは市販のものをお使いください。

スネア

ドラム・セットの中で音の中心となるドラムです。

ハイハット／ハイハット・ペダル

2枚のシンバルが上下対になっています。ハイハット・ペダルを踏むことで、ハイハットのオープンやクローズが可能です。

※TD-1 Double Mesh Kit (例) では、シンバル・パッド1枚です。

タム (タム1、タム2)

通常、バス・ドラムの上に設置します。

フロア・タム (タム3)

バス・タムと呼ばれることもあります。床に設置します。

ライド

リズムの基本的なビートを刻みます。通常右側に設置します。

クラッシュ

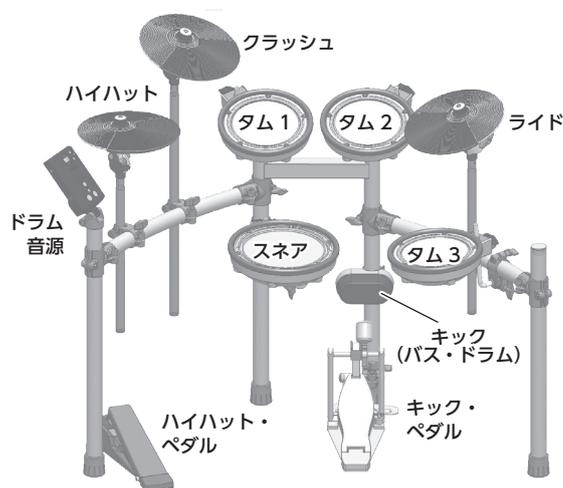
ライドより小さなシンバルで、強いアクセントをつけるときに使います。

※TD-1 Double Mesh Kit (例) では、ライドと同じサイズです。

アコースティック・ドラム



Vドラム (例: TD-1 Double Mesh Kit)



ドラム奏法の基本

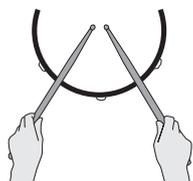
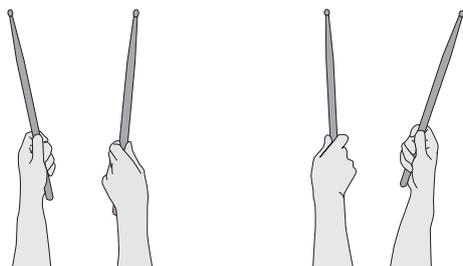
ドラム・セットは、両手、両足を使って演奏します。ここではスティックの持ちかたやペダルの踏みかたなどを紹介します。

スティックの持ちかた

最も一般的な「マッチド・グリップ」を紹介します。

左手

右手

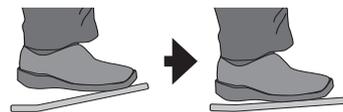


キック・ペダルの踏みかた

キック・ペダルには「ヒール・アップ奏法」と「ヒール・ダウン奏法」の2種類の踏みかたがあります。

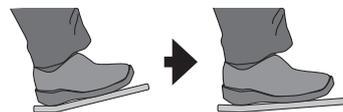
ヒール・アップ奏法

かかとを浮かせてペダルを踏む奏法です。かかとを上げた状態から脚全体を落とすようにペダルを踏みます。脚全体の重みをペダルに掛けることができるので、ヒール・ダウンより強い音が出しやすくなります。ロックやポップスで多用されます。



ヒール・ダウン奏法

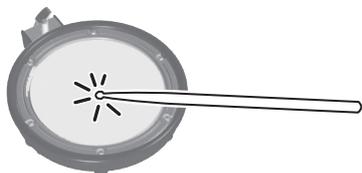
かかとからつま先まで、ペダルにべったりとつけて踏む奏法です。くるぶしの関節を使ってつま先でペダルを踏みます。繊細な音量のコントロールがしやすく、ジャズやボサノバなどで多用されます。



スネアの奏法

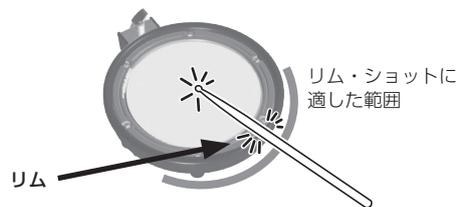
ヘッド・ショット

パッドの打面を叩く、最も一般的な奏法です。



リム・ショット

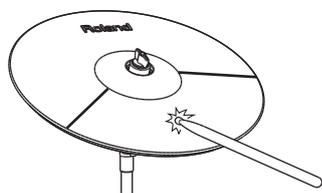
ヘッド部とリム部を同時に叩きます。ヘッド・ショット時とは異なる音色（リム音色）が鳴ります。



シンバルの奏法

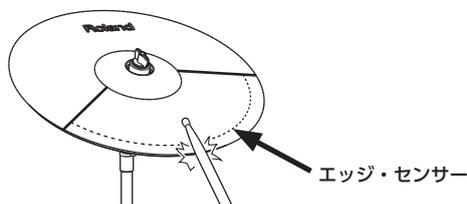
ボウ・ショット

シンバルの打面を叩く、最も一般的な奏法です。



エッジ・ショット

エッジ（シンバルの端）をスティックのショルダー部で叩く奏法です。（図のエッジ・センサーの位置を叩きます。）

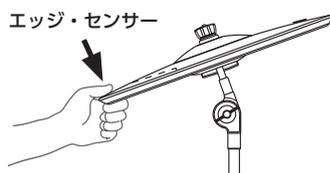


※ ハイハットでも、ボウ・ショット、エッジ・ショットが可能です。

チョーク奏法

シンバルを叩いたあとにエッジ付近を手でチョークする（つかむ）と、音が止まります。

※ 図のエッジ・センサーの位置を手でチョークしてください。センサーのない部分をチョークしても音は止まりません。

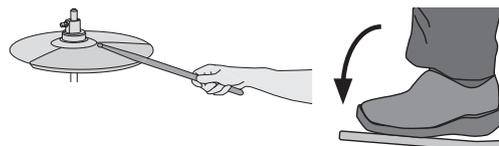


ハイハットの奏法

アコースティック・ドラムのハイハットは、2枚のシンバルが上下対になってスタンドにセットされています。ペダルを操作して2枚のシンバルを開閉できます。ペダルを踏んだり、スティックで叩いたり、いろいろな奏法ができます。ペダルを踏み込むと2枚のシンバルが密着した状態（クローズ）になります。ペダルを離すと2枚のシンバルが離れた状態（オープン）になります。

クローズ

ハイハット・ペダルを強く踏み込んだ状態で、パッドをスティックで叩きます。「チツ」と短い音になります。

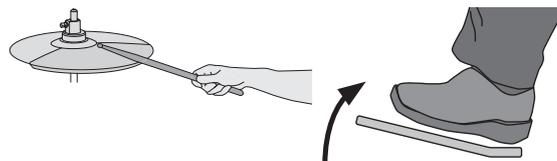


ハーフ・オープン

ハイハット・ペダルを弱く踏んだ状態で、パッドをスティックで叩きます。「チー」と少し長い音になります。

オープン

ハイハット・ペダルから完全に足を離れた状態で、パッドをスティックで叩きます。叩くとハーフ・オープンよりさらに長い音になります。



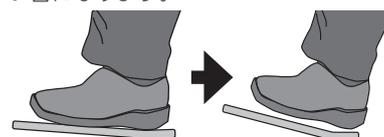
フット・クローズ

スティックを使わずペダルだけを踏み込みます。クローズより柔らかな短い音になります。タイトな音で、リズム・キープに有用です。



フット・スプラッシュ

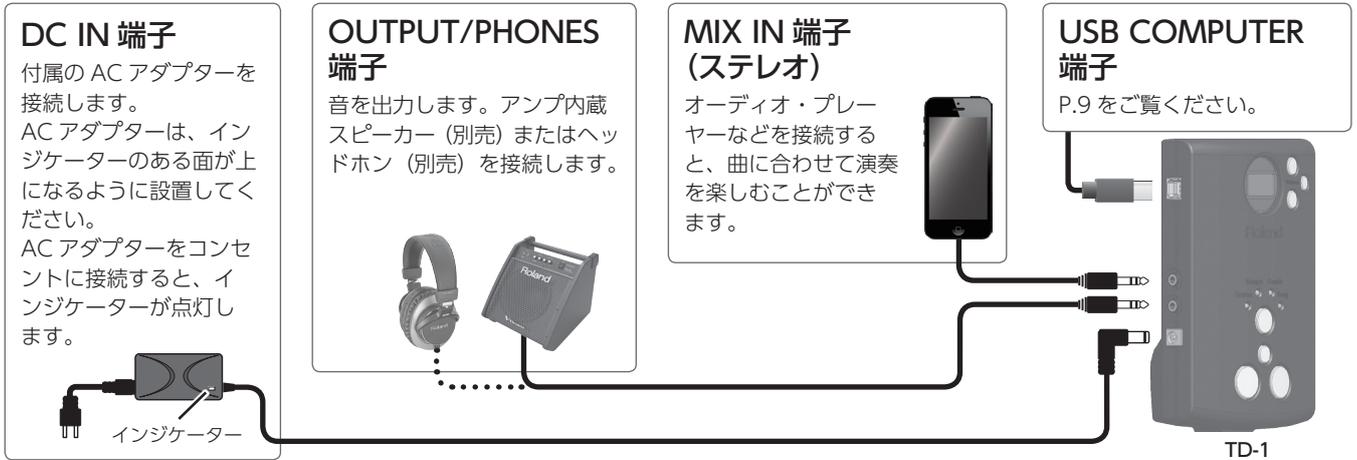
スティックを使わずペダルを蹴る要領で、踏み込まずにすぐに足を離します。アコースティックのハイハットで2枚のシンバルを瞬間的にぶつける状態です。オープンより柔らかな音で長い音になります。



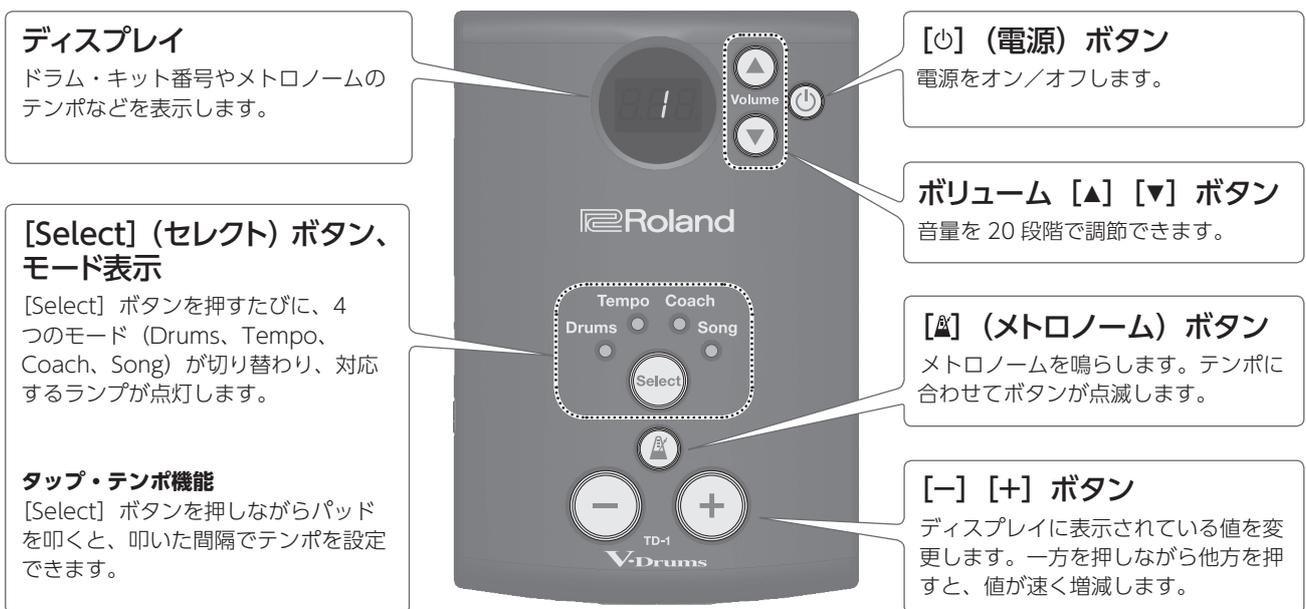
クイック・スタート

周辺機器の接続

※ 他の機器と接続するときは、誤動作や故障を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞り、すべての機器の電源を切ってください。



フロント・パネル



電源を入れる／切る

電源を入れる

1. 接続しているアンプ内蔵スピーカーの音量を最小にします。
2. [⏻] (電源) ボタンを押します。
本機の電源が入ります。



3. 接続しているアンプ内蔵スピーカーの電源を入れ、音量を調節します。

4. ボリューム [▲] [▼] ボタンで音量を調節します。



電源を切る

1. 接続している外部機器の音量を最小にします。
2. 外部機器の電源を切ります。
3. [⏻] (電源) ボタンを長押しします。

本機の電源が切れます。

※ 必ず [⏻] (電源) ボタンを押して、電源を切るようにしてください。

演奏する

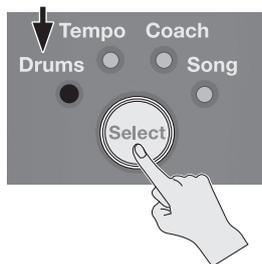
ドラムは叩けば音が出る、誰にでも簡単に始められる楽しい楽器です。内蔵されているさまざまな音色で、ドラムの演奏を始めましょう。

ドラム・キットを選ぶ

「ドラム・キット」とは、「音色を集めたセット」のことです。それぞれのパッドに音色が割り当てられています。パッドによっては、叩く強さで音色が変わるものもあります。

1. [Select] ボタンで、Drums (ドラム) モードを選びます。

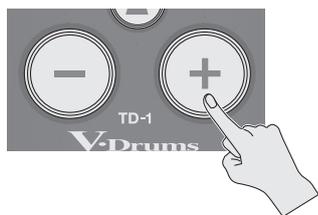
※ 電源投入時は、Drums モードが選ばれています。



ディスプレイに、ドラム・キット番号が表示されます。



2. [-] [+] ボタンを押して、ドラム・キットを選びます。



※ ドラム・キットのリストについては、巻末をご覧ください。

3. パッドを叩いて演奏します。

Auto Off 機能について

本機は、演奏や操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます (Auto Off 機能)。自動的に電源が切れないようにするには、Auto Off 機能を解除してください (P.10)。

ご注意!

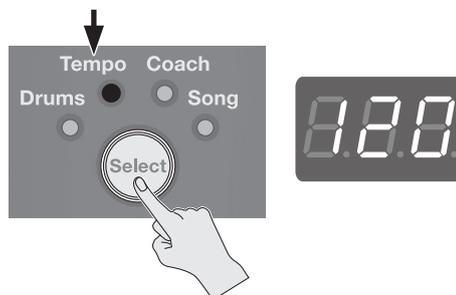
電源を再びオンにするときは、電源を入れ直してください (P.10)。

メトロノームを鳴らす

メトロノームを鳴らしながらドラムを演奏することができます。一定のテンポで演奏するための練習に便利です。

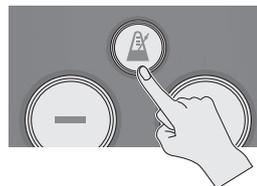
1. [Select] ボタンで、Tempo (テンポ) モードを選びます。

ディスプレイにメトロノームのテンポが表示されます。



2. [M] (メトロノーム) ボタンを押します。

メトロノームがオンになり、メトロノームのテンポに合わせてボタンが点滅します。



※ Drums モードでも、[M] (メトロノーム) ボタンを押して、メトロノームを鳴らすことができます。

3. [-] [+] ボタンを押して、テンポを変更します。

※ タップ・テンポ機能 (P.4) でテンポを設定することもできます。

4. もう一度 [M] (メトロノーム) ボタンを押すと、メトロノームがオフになります。

メトロノームの鳴らしかたを変える

1. Tempo モードで、[M] (メトロノーム) ボタンを長押しします。

メトロノームが鳴ります。

2. [Select] ボタンで変更する項目 (パラメーター) を選び、[-] [+] ボタンで値を変更します。

パラメーター	表示	説明
拍子	b 1 (1 拍子) ~	拍子を設定します。
	b 9 (9 拍子)	
リズム・タイプ	r 0 (全音符)	リズム・タイプを設定します。
	r 4 (4 分音符)	
	r 8 (8 分音符)	
	r 8 3 (8 分 3 連符)	
	r 16 (16 分音符)	
音量	L 0 ~ L 10	音量を設定します。
音色	5 1 ~ 5 8	音色を設定します。

3. [M] (メトロノーム) ボタンを押して、設定を終了します。

練習する

コーチ・モードで練習する

本機には、練習の効果を最大限に引き出すために用意された、ユニークな「コーチ・モード」があります。スピードのコントロール能力や、精度、持久力を鍛えるとともに、タイミングをうまくとる練習に大変適しています。

練習メニューを選ぶ

1. [Select] ボタンで、Coach (コーチ) モードを選びます。
コーチ・モードのメニュー画面が表示されます。
2. [-] [+] ボタンを押して、練習メニュー C-1 ~ C10 を選びます。
練習メニューの内容については、次項をご覧ください。

ビートに合わせて正確に叩く

<[-1]> Time Check (Easy)

<[-2]> Time Check (Hard)

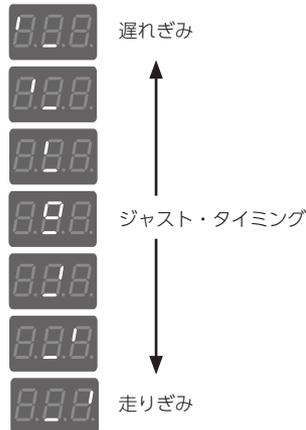
メトロノームのビートに合わせて、正確にタイミングよく叩く練習をします。
C-1 と C-2 では、難易度 (Easy : 簡単、Hard : 難しい) が異なります。

1. [M] (メトロノーム) ボタンを押して、練習をスタートします。

スタートすると 2 小節のカウント・インが入ります。

2. メトロノームに合わせてパッドを叩きます。

パッドを叩いたタイミングが、メトロノームに合っているかどうかを、ディスプレイに表示します。



※ 練習中でも [-] [+] ボタンを押して、テンポを調節することができます。

3. 練習が自動的に終了し、ディスプレイに点数が表示されます。

採点機能を「OFF」にしている場合は、[M] (メトロノーム) ボタンを押して終了します。コーチ・モードのメニュー画面に戻ります。

採点する小節数を変更する

Time Check の結果を採点するまでの、小節数を変更することができます。
また、採点結果を表示しないようにすることもできます。

1. [M] (メトロノーム) ボタンを長押しします。
2. [-] [+] ボタンで、値を変更します。

表示	説明
OFF	採点しません。
4、8、16、32	採点の結果がディスプレイに表示されます。 採点する小節数を設定します。 ※ スタートすると 2 小節のカウント・インが入ります。

3. [M] (メトロノーム) ボタンを押します。

リズムの変化に合わせて叩く

<[-3]> Change-up

メトロノームのリズム・タイプが 2 小節ごとに変化していきます。2 分音符から始まって徐々に音符が細くなっていき、また 2 分音符まで戻るといったリズムの変化を繰り返します。

1. [M] (メトロノーム) ボタンを押して、練習をスタートします。
2. メトロノームのリズムに合わせて、パッドを叩きます。
練習中はディスプレイにテンポが表示されます。
※ 練習中でも [-] [+] ボタンを押して、テンポを調節することができます。
3. [M] (メトロノーム) ボタンを押して、練習を終了します。
コーチ・モードのメニュー画面に戻ります。

リズム変化のパターンを変更する

1. [M] (メトロノーム) ボタンを長押しします。
2. [-] [+] ボタンで、値を変更します。

表示	リズム・パターン
r-5	
r-6	
r-7	

3. [M] (メトロノーム) ボタンを押します。

テンポの変化に合わせて叩く

< C-4 > Auto Up / Down

テンポを徐々に上げ下げすることで、持久力を高める練習をします。メトロノームのテンポが下限値から1ずつ上がっていき、テンポの上限値になると、テンポが1ずつ下がります。このテンポ変化を繰り返します。

1. [M] (メトロノーム) ボタンを押して、練習をスタートします。
2. メトロノームのテンポに合わせて、パッドを叩きます。
練習中に [-] ボタンを押すと、現在のテンポがテンポ上限値となり、[+] ボタンを押すとテンポ上限値が260に戻ります。
3. [M] (メトロノーム) ボタンを押して、練習を終了します。
コーチ・モードのメニュー画面に戻ります。

テンポが変わる拍数を変更する

1. [M] (メトロノーム) ボタンを長押しします。
2. [-] [+] ボタンで、値を変更します。

表示	説明
b-1	1拍でテンポが1上がり/下がります。
b-2	2拍でテンポが1上がり/下がります。
b-4	4拍でテンポが1上がり/下がります。

3. [M] (メトロノーム) ボタンを押します。

身体でテンポを感じる

< C-5 > Quiet Count

身体でテンポを感じるための練習です。最初の4小節はメトロノームが鳴りますが、次の4小節は鳴りません。この周期を繰り返します。

1. [M] (メトロノーム) ボタンを押して、練習をスタートします。
2. メトロノームのテンポに合わせて、パッドを叩きます。
 - 最初の数小節はメトロノームが鳴ります。
 - 次の数小節は、メトロノームが鳴りません。この間もパッドを叩き続けます。
 - 再びメトロノームが鳴り始めます。正確なテンポで叩いた割合 (%) がディスプレイに表示されます。

※ 練習中でも [-] [+] ボタンを押して、テンポを調節することができます。

3. [M] (メトロノーム) ボタンを押して、練習を終了します。
コーチ・モードのメニュー画面に戻ります。

メトロノームの音量周期を変更する

1. [M] (メトロノーム) ボタンを長押しします。
2. [-] [+] ボタンで、値を変更します。

表示	説明
n-1	1小節間隔でメトロノームの音量が変化します。
n-2	2小節間隔でメトロノームの音量が変化します。
n-4	4小節間隔でメトロノームの音量が変化します。
n31	最初の3小節は設定された音量でメトロノームが鳴り、次の1小節は音量が小さくなります。
n62	最初の6小節は設定された音量でメトロノームが鳴り、次の2小節は音量が小さくなります。

3. [M] (メトロノーム) ボタンを押します。

一定のテンポで叩き続ける

< C-6 > Tempo Check (Easy)

< C-7 > Tempo Check (Hard)

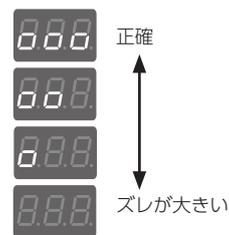
メトロノームに頼らず、一定のテンポを保ちながら叩く練習です。
C-6とC-7では、難易度 (Easy : 簡単、Hard : 難しい) が異なります。

1. [M] (メトロノーム) ボタンを押して、練習をスタートします。

2. メトロノームのテンポに合わせて、パッドを叩きます。

一定のテンポを保つようにパッドを叩きます。

- 正確なテンポで叩くと、メトロノームの音が小さくなります。
- パッドを叩くテンポがズレてくると、メトロノームの音が大きくなってきます。ズレが大きいほど、メトロノームの音が大きくなります。メトロノームのテンポに合わせて、パッドを叩くタイミングを修正します。



※ 練習中でも [-] [+] ボタンを押して、テンポを調節することができます。

※ 叩くテンポが大きくズレると、テンポのズレを正確に判定できないことがあります。

3. [M] (メトロノーム) ボタンを押して、練習を終了します。
コーチ・モードのメニュー画面に戻ります。

右手と左手の叩く強さをそろえる

< [- B] > Stroke Balance

右手と左手の音量のばらつきを抑え、音の粒をそろえる練習です。ディスプレイの表示で、叩く強さを確かめることができます。

1. [M] (メトロノーム) ボタンを押して、練習をスタートします。

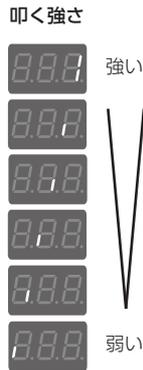
2. メトロノームに合わせて、パッドを叩きます。

パッドを叩く強さが、ディスプレイに表示されます。

※ 練習中でも [-] [+] ボタンを押して、テンポを変えることができます。

3. [M] (メトロノーム) ボタンを押して、練習を終了します。

コーチ・モードのメニュー画面に戻ります。



時間を変更する

1. [M] (メトロノーム) ボタンを長押しします。
2. [-] [+] ボタンで値を変更します。
設定値：1～99分 (と 1～と99)
3. [M] (メトロノーム) ボタンを押します。

自分の演奏を録音して確認する

< [10] > Recording

自分の演奏を簡単に録音できます。録音したものをすぐに確認し、再び練習するといった繰り返しに便利な機能です。

録音する

1. [M] (メトロノーム) ボタンを押します。
メトロノームが鳴り、録音スタンバイ状態になります。ディスプレイにはテンポが表示されます。
※ [-] [+] ボタンでテンポを変更できます。



2. パッドを叩くと、録音をスタートします。

※ 録音中は、常にメトロノームが鳴ります。
※ MIX IN 端子に入力した音声は録音されません。

3. 録音を終了するには、[M] (メトロノーム) ボタンをもう一度押します。

再生する

1. [+] ボタンを押して、録音したデータを再生します。
再生が終了すると、自動的に停止します。
2. 再生を停止するときは、[-] ボタンを押します。

で注意！

録音したデータは保存されません。別のモードや他の練習メニューに切り替えると、データは消えます。

時間を決めて練習する

< [- 9] > Timer

設定時間後にアラーム音でお知らせします。毎日の基礎練習などで目標時間を設定できます。初期値は3分です。

1. [M] (メトロノーム) ボタンを押して、練習をスタートします。

タイマーがスタートします。

2. メトロノームに合わせて、自由に練習します。

ディスプレイに、残り時間の目安が表示されます。



設定時間後、アラーム音が鳴り、メトロノームが停止します。コーチ・モードのメニュー画面に戻ります。

※ 練習中でも [-] [+] ボタンを押して、テンポを変えることができます。

※ 途中でタイマーを止めるには、もう一度 [M] (メトロノーム) ボタンを押します。

※ [Select] ボタンでほかのモードを選んでも、タイマーは動き続けます。

ソングに合わせて演奏する

本機には、練習に最適な曲（ソング）が内蔵されています。

ソングを選ぶ

1. [Select] ボタンで、Song（ソング）モードを選びます。
2. [-] [+] ボタンを押して、ソングを選びます。

※ ソングのリストについては、巻末をご覧ください。

ソングを再生 / 停止する

1. [M]（メトロノーム）ボタンを押して、ソングを再生します。
 - ※ スタートすると1小節のカウント・インが入ります。
 - ※ ソングのテンポを変更することはできません。
2. ソングを停止するときは、もう一度 [M]（メトロノーム）ボタンを押します。

メトロノームを鳴らさないようにする

メトロノームを鳴らさずに、ソングを再生して練習することができます。

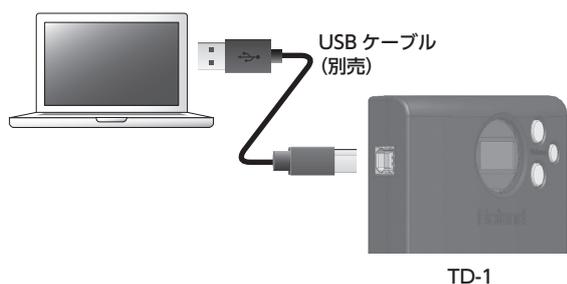
1. [M]（メトロノーム）ボタンを長押しします。
2. [-] [+] ボタンで、ディスプレイに OFF を表示させます。
 - ※ メトロノームを鳴らしたいときは、ON を表示させます。
3. [M]（メトロノーム）ボタンを押します。

パソコン / iPad と接続する

本機を、お手持ちのパソコンや iPad と接続して、V-Drums Tutor などのアプリと連携することができます。

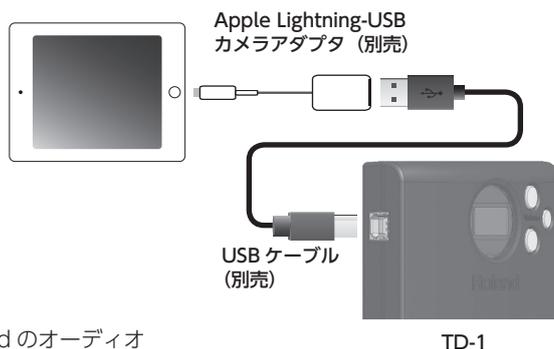
パソコンと接続する

※ ドライバーのインストールは必要ありません。



iPad と接続する

※ 接続には、Apple Lightning-USB カメラアダプタ（Apple 社製）が必要です。



パソコン / iPad の音を音源モジュールから再生するには、パソコン / iPad のオーディオ出力と本機の MIX IN 端子を、市販のオーディオ・ケーブルで接続します。

V-Drums Tutor とは？

V-Drums Tutor（別売）は、簡単に、楽しく、効果的にドラムが練習できるローランド V-Drums 専用のドラム練習ソフトです。

詳細設定をする

1. [Select] ボタンで、Drums モードを選びます。
2. [M] (メトロノーム) ボタンを長押しします。
※ モード表示ランプが点滅します。

パッドの感度を調節する

3. [Select] ボタンで、Drums を点滅させます。
4. 感度を変更したいパッドまたはキック・ペダルを鳴らします。
5. [-] [+] ボタンで、感度を調節します。
感度の値がディスプレイに表示されます。
値を大きくすると感度が高くなり、弱く叩いても大きな音で鳴ります。値を小さくすると、感度が低くなり、強く叩いても小さな音で鳴ります。
6. [M] (メトロノーム) ボタンを押して、設定を終了します。

パッドの種類を変更する

別売のキック・トリガーや、メッシュ・パッドを使うときは、パッドの種類を変更します。

3. [Select] ボタンで、Tempo を点滅させます。
4. キック・ペダルまたはスネア・パッドを鳴らします。
5. [-] [+] ボタンで、種類を変更します。

表示	パッドの種類
キック・ペダル	
1	(TD-1 初期値)
2	KD-9
3	KT-9、KT-10
スネア・パッド	
5 1	(TD-1K 初期値)
5 2	PDX-8、PDX-6 (TD-1K 以外)

6. [M] (メトロノーム) ボタンを押して、設定を終了します。

MIDI ノート・ナンバーを変更する

3. [Select] ボタンで、Coach を点滅させます。
4. ノート・ナンバーを変更したいパッドを鳴らします。
ディスプレイにノート・ナンバーが表示されます。
5. [-] [+] ボタンで、設定値を変更します。
設定値：0～127、OFF
6. [M] (メトロノーム) ボタンを押して、設定を終了します。

ノート・ナンバー (初期値)

パッド	ノート・ナンバー
KIK	36
SNR (ヘッド)	38
SNR (リム)	40
T1	48
T2	45

パッド	ノート・ナンバー
T3	43
HH オープン (ボウ)	46 *a
HH オープン (エッジ)	26 *b
HH クローズ (ボウ)	(42) *a-4
HH クローズ (エッジ)	(22) *b-4
HH フット・クローズ	(44) *a-2
CR1 (ボウ)	49
CR1 (エッジ)	55
CR2 (ボウ)	57
CR2 (エッジ)	52
RD (ボウ)	51
RD (エッジ)	59

MIDI チャンネル：10

※ 本機は MIDI メッセージを受信しません。

オート・オフの時間を変更する

本機は、演奏や操作をやめてから一定時間経過すると、自動的に電源が切れます (オート・オフ機能)。電源をオンにするときは、もう一度 [O] (電源) ボタンを押してください。自動的に電源が切れないようにすることもできます。

3. [Select] ボタンで、Song を点滅させます。
4. [-] [+] ボタンで、時間を変更します。

表示	説明
OFF	電源は自動的に切れません。
10	10分経過すると、自動的に電源が切れます。
30	30分経過すると、自動的に電源が切れます。
240	4時間経過すると、自動的に電源が切れます。

5. [M] (メトロノーム) ボタンを押して、設定を終了します。

工場出荷時の設定に戻す

本機に記憶されている設定値を、工場出荷時の状態に戻します。これをファクトリー・リセットと呼びます。

ご注意!

ファクトリー・リセットを実行すると、本機に記憶されている設定値はすべて消去されます。

1. [-] [+] ボタンを押しながら、[O] (電源) ボタンを押して電源を入れます。
ディスプレイに、下記のように表示されます。



2. ファクトリー・リセットを実行するときは、[M] (メトロノーム) ボタンを押します。
中止するときは、[O] (電源) ボタンを押して電源を切ります。

トラブルシューティング

症状	確認事項	対策
音に関するトラブル		
音が出ない／音が小さい	本機と外部機器を正しく接続していますか？	接続を確認してください。
	アンプ内蔵スピーカーの入力端子に正しく接続していますか？	
	OUTPUT/PHONES 端子に接続ケーブルが正しく接続されていますか？	
	オーディオ・ケーブルが断線していませんか？	ケーブルを交換してください。
	ヘッドホンから音が出ていますか？	音が出るようであれば、接続ケーブルが断線しているか、接続しているアンプやスピーカーに原因があります。接続している機器や接続を確認してください。
	本機の音量が下がっていませんか？	適正なレベルに調節してください。
	接続しているアンプやスピーカーのボリュームが下がっていませんか？	
	MIX IN 端子に接続した機器のボリュームは下がっていませんか？	
TRIGGER INPUT 端子に接続ケーブルが正しく接続されていますか？	接続を確認してください。	
特定のパッドの音が出ない	各パッドやペダルにケーブルが正しく接続されていますか？	パッドの感度を調節してください。
	パッドの感度が下がっていませんか？	
	パッドの種類は正しく設定されていますか？	
キック・ペダルを踏んでも音が出ない	キック・パッドに KIK のラベルのあるケーブルが接続されていますか？	接続を確認してください。
ハイハット・ペダルを踏んでも音が出ない	ハイハット・ペダルに HHC のラベルのあるケーブルが接続されていますか？	
パッドを叩くと、ほかのパッドの音も鳴ってしまう	同じスタンドに複数のパッドを取り付けた場合、叩いた振動がほかのパッドにも伝わり、誤発音することがあります。	取り付け位置を変更してください。
1 度叩くと、2 回以上音が鳴る	スタンドにしっかりと固定していますか？	パッドをスタンドにしっかりと固定してください。
音の鳴りかたが不安定	パッドのメッシュ・ヘッドは均一に張られていますか？	メッシュ・ヘッドの張り具合を調節してください。張りをやや強くすると鳴りかたが安定します。
USB に関するトラブル		
パソコンと接続できない	USB ケーブルは正しく接続されていますか？	接続を確認してください。
MIDI に関するトラブル		
外部 MIDI 機器の音が出ない	MIDI チャンネルは合っていますか？	外部 MIDI 機器の MIDI チャンネルを 10 に設定してください。
	ノート・ナンバーは合っていますか？	パッドのノート・ナンバーを確認してください。

主な仕様

ローランド TD-1：ドラム・サウンド・モジュール

ドラム・キット	15
ソング	15
ディスプレイ	7 セグメント 3 桁 (LED)
インターフェース	USB MIDI (送信のみ)
電源	AC アダプター
消費電流	150mA
外形寸法	106 (幅) × 43 (奥行) × 181 (高さ) mm
質量 (AC アダプターを除く)	236g
付属品	取扱説明書 『安全上のご注意』 チラシ AC アダプター 電源コード

※ 本書は、発行時点での製品仕様を説明しています。最新情報についてはローランド・ホームページをご覧ください。

安全上のご注意

警告

Auto Off 機能について

本機は、演奏や操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます (Auto Off 機能)。自動的に電源が切れないようにするには、Auto Off 機能を解除してください (P.10)。



警告

付属の AC アダプターを AC100V で使用する

AC アダプターは、必ず付属のものを、AC100V の電源で使用してください。



付属の電源コードを使用する

電源コードは、必ず付属のものを使用してください。また、付属の電源コードを他の製品に使用しないでください。



使用上のご注意

修理について

- 修理を依頼されるときは、事前に記憶内容をバックアップするか、メモしておいてください。修理するときには記憶内容の保存に細心の注意を払っておりますが、メモリー部の故障などで記憶内容が復元できない場合もあります。失われた記憶内容の修復に関しましては、補償も含めご容赦願います。
- 当社では、本機の補修用性能部品 (製品の機能を維持するために必要な部品) を、製造打切後 6 年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。なお、保有期間を過ぎたあとも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店、またはローランドお客様相談センターにご相談ください。

その他の注意について

- 記憶した内容は、機器の故障や誤った操作などによって失われることがあります。失っても困らないように、大切な記憶内容はメモしておいてください。
- 失われた記憶内容の修復に関しましては、補償を含めご容赦願います。
- 抵抗入りの接続ケーブルは使用しないでください。

知的財産権について

- 第三者の著作物 (音楽作品、映像作品、放送、実演、その他) の一部または全部を、権利者に無断で録音、録画、複製あるいは改変し、配布、販売、貸与、上演、放送などを行うことは法律で禁じられています。
- 第三者の著作権を侵害する恐れのある用途に、本製品を使用しないでください。お客様が本製品を用いて他者の著作権を侵害しても、当社は一切責任を負いません。
- 製品に内蔵、付属されたコンテンツ (音色波形データ、スタイル・データ、伴奏パターン、フレーズ・データ、オーディオ・ループ、画像データなど) の著作権は当社が保有しています。
- 製品に内蔵、付属されたコンテンツ (ただしデモ曲などの楽曲データは除く) を素材として、お客様が新たな作品を制作、演奏、録音、配布することに関しては、当社の許諾を必要としません。
- 製品に内蔵、付属されたコンテンツを、そのまま、もしくは酷似した形態で取り出し、別の記録媒体に固定して配布したり、コンピューター・ネットワークを通じて公開したりすることはできません。
- Roland、V-Drums は、日本国およびその他の国におけるローランド株式会社の登録商標または商標です。
- 文中記載の会社名および製品名などは、各社の登録商標または商標です。